

＝ISO/TC149/SC1、WG9 及び WG10 国際会議を開催しました＝

財団法人 自転車産業振興協会
技 術 研 究 所

当協会は「ISO/TC149（自転車）/SC1」の幹事国かつ国内審議団体として、ISOからの諸提案に対しては、業界等有識者で構成する「ISO 原案作成委員会」ならびに個別案件の具体的検討を行う「WG 対応国内作業部会」を設置して、実務的な提案内容の審議・検討を行うとともに、国際規格等に関する各種情報提供、或いは国際規格と JIS の整合化などについて、幅広い視点から意見交換を行って相互理解を深めることを目的として ISO 関連事業を実施しているところです。

その一環として、12月12日～16日までの5日間にわたって、当協会主催による「ISO/TC149/SC1、WG9 及び WG10 国際会議」を大阪で開催しましたので、その概要をお知らせします。

1. 開催日程

平成23年12月12日（月）～16日（金） 5日間

第1日目	12月12日（月）	WG10会議	1日目
第2日目	13日（火）	WG10会議	2日目
第3日目	14日（水）	WG9会議	1日目
第4日目	15日（木）	WG9会議	2日目
第5日目	16日（金）	WG9会議	3日目

SC1会議、技研テクニカルツアー

2. 開催場所

自転車博物館「サイクルセンター」公益財団法人シマノ・サイクル開発センター

3. 審議内容概要

■ ISO/TC149/SC1/WG9会議

WG9 は日本がプロジェクティヴリーダー(PL)を引き受けて、主導的立場で ISO/WD4210（自転車の安全要件）の改正作業を実施しています。改正案の概要は、EN14764（シティ及びトレッキング車）、EN14766（マウンテンバイク）、EN14781（レーシング車）の3規格をベースにパート構成（9Part）として1つの規格に取りまとめるとともに、日本の主張等を盛り込んだ ISO/WD4210(Ver. 4)を策定しました。

特に、日本が主体となって改正作業を進めている ISO/WD4210 は、ISO 国際会議において高く評価されており、欧州標準化委員会(CEN)においては、ISO4210 をそのまま EN 規格に反映するという決議がされております。この ISO4210 を EN 規格に反映する流れは、必然的に EN 規格をベースに策定した日本の業界基準である“SBAA”の規定内容にも直接影響を及ぼすこととなり、国内工業型・商業型メーカーをはじめ、輸入商社等においても極めて重要な案件になると考えられます。

WG9 国際会議には、日本をはじめ、海外からフランス、ドイツ、アメリカ、インドなど総勢 23 名が参加して、3 日間にわたり ISO/WD4210(Ver. 4)及び ISO/CD8098 について、闊達な議論がなされた。その結果、ISO/WD4210 を WD(作業原案)から次のステップである CD (委員会原案) 登録することが合意されました。次回の WG9 会議は、来年 6 月にアメリカで実施され併催される SC1 会議において DIS(国際規格案)登録を目指します。

■ ISO/TC149/SC1/WG10会議

WG10 国際会議では、日本をはじめ、海外からフランス、ドイツ、インド、イギリス、アメリカなど総勢 23 名が参加して、2 日間にわたり ISO/WD6742（ランプ及びリフレクタ）につ

いて闊達な議論がなされました。その結果、リフレクタの試験方法の変更、振動試験方法の変更及び雨水等の浸入に対する保護等級を IPX3 から IPX4 に強化する日本からの提案が採択されるなど一定の成果を得ました。ISO/WD6742 については、加盟国からのコメント収集を実施する CD 登録を実施することが合意され、来年 6 月にアメリカで開催される WG10 会議において各国からのコメントの審議後、2 回目の CD(委員会原案)登録が実施されます。

■ ISO/TC149/SC1 会議

WG9 会議及び WG10 会議で合意された内容が SC1 委員会に報告され決議されたほか、新規検討項目として「警音機(ベル)」の投票を行う事、並びに ISO/11243 (ラゲッジキャリヤ) の改正を検討する WG11 を設置するなどの決議がなされました。

■ 技術研究所へのテクニカルツアー

5 日間にわたる会議の終了後に「技研テクニカルツアー」と称して、当協会・技術研究所の見学会を実施した。海外からの参加者 17 名全員が参加し、日本の自転車規格並びに国際規格を主導する試験・検証設備等を熱心に見学しました。



国際会議参加者



WG10 会議



WG9 会議



テクニカルツアー

4. ISO 関連情報等の業界への周知

ISO/4210 及び ISO/6742 改正案等をはじめ、ISO 規格に関する動向・情報などは、その都度、技術研究所のホームページを通じて、広く業界各位に対して周知するとともに、必要に応じて業界のパブリックコメントを募集するなど、自転車業界を主導する立場で引き続き ISO 関連事業を推進していきます。